

十九 ○○家神実様遷座祭祭文

これの神床を清らかに払い清めて今し厳かにお遷し申しお鎮め申しました親神天理王命の御前に慎んで申し上げます

親神様には朝な夕な私達子供の上に親心深くお働き下され洵に感謝の念に堪えません

殊には長い間静かなで講社祭をされておりました

夫妻は勤務先の変更からこれの市なるに移転され

幸い夫婦共々教壇に立つという御守護に浴し漸く生活も落ち着いて参りましたのでお二人の結ばれた○○日を記念し

今日の吉き日の今宵元一日を振り返り新たな門出をすべく神実様を只今遷座し鎮座させて頂いたのでございます

教え導く生徒達は均しく親神様の可愛い我が子であり相互は国境も民族も越えて睦み合うべき兄弟姉妹であって而も皆

神様の懐ろ住いをしており陽気遊山の世界づくりを目指さねばならないという人生の基本姿勢を自覚し親の道を子が通り

上流が下流に及ぶという天然自然の理を忘れずひたすら自らの心の成人を期して参りますが同時に成程の理は八方と

いうと仰せられたお言葉通り信仰を通じて培われた誠の道成程の道が職場や地域社会に溢れ出て神名を称える陽気

ぐらしの輪が年限と共に広く大きく拡がって参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます